

フロン類の規制などに関する 連合の意見

連合社会政策局
小熊 栄

冷媒を用いる機器の設計について

- ❑ 冷媒のリークを低減する設計に加え、技術的知見のないユーザー（たとえばパート従業員など）でも日常的な点検や簡易点検などが行いやすい設計が必要ではないか
- ❑ リーク低減の観点から、使用冷媒量の少量化をさらに進める必要があるのではないか
- ❑ 新たな冷媒の開発・普及にあたっては、冷媒の「リスクアセスメント（毒性、麻酔性、窒息性など）」と同時に、冷媒をとりまくインフラの整備、法律・制度の整備が必要ではないか

フロン・代替フロンの回収率向上について

- フロン排出抑制法の周知方法を改善したとしても、行政の予算や人員に制限あるため、回収量の劇的な増加は望めないのではないか
 - 建設リサイクル制度において、フロン類の回収については回収事業者の報告、アスベストの事前調査・撤去については、専門検査会社などの報告の添付を義務つけてはどうか

- 機器の更新費用が捻出できない企業への当面の対策と、その対策のデッドラインを示すことが必要ではないか
 - 冷媒レトロフィットについては、潤滑油や材料適合性などの課題を個別に解決したうえで普及・促進することが必要だが、キガリ改定を踏まえ、期限を区切った対応とすべき

将来を見据えた対応について

- 新たな冷媒や機器の技術的・価格の見通しと、その安定供給体制をふまえた「冷媒のロードマップ」とともに、ユーザー企業の負担を最低限にするための方策を示すことが必要ではないか
 - ➔ 機器の更新については、ユーザー企業に一定の助成制度が必要と考える
- 経済的手法については、ノンフロン冷媒を用いた機器の価格動向を踏まえたうえで、開始の時期や規模を想定すべきではないか
 - ➔ 3つのうちどれが最適か現段階で結論を出さずに、新たな冷媒や機器の開発状況、導入コストなどを勘案しつつ、金額（税額・課金・預託金）を含め「現時点のロードマップ」が完成した後に決めてはどうか